

# EUGENE ATGET - A RETROSPECTIVE AN INTIMATE VIEW OF PARIS AT THE TURN OF THE CENTURY

◎1998年9月3日(木)―11月4日(水) ■東京都写真美術館2階企画展示室



[観覧料]一般600(480)円/学生480円/小・中・高校生300(240)円

[常設展との共通観覧料]一般1,000(800)円/学生800円/小・中・高校生500(400)円( )内は20名以上の団体料金。小学生未満、65歳以上の方、および障害のある方とその介護の方1名は無料になります。学生の方は学生証をご提示ください。

■開館時間 午前10時―午後6時(木・金曜日は午後8時まで、入館は閉館時間の30分前まで)

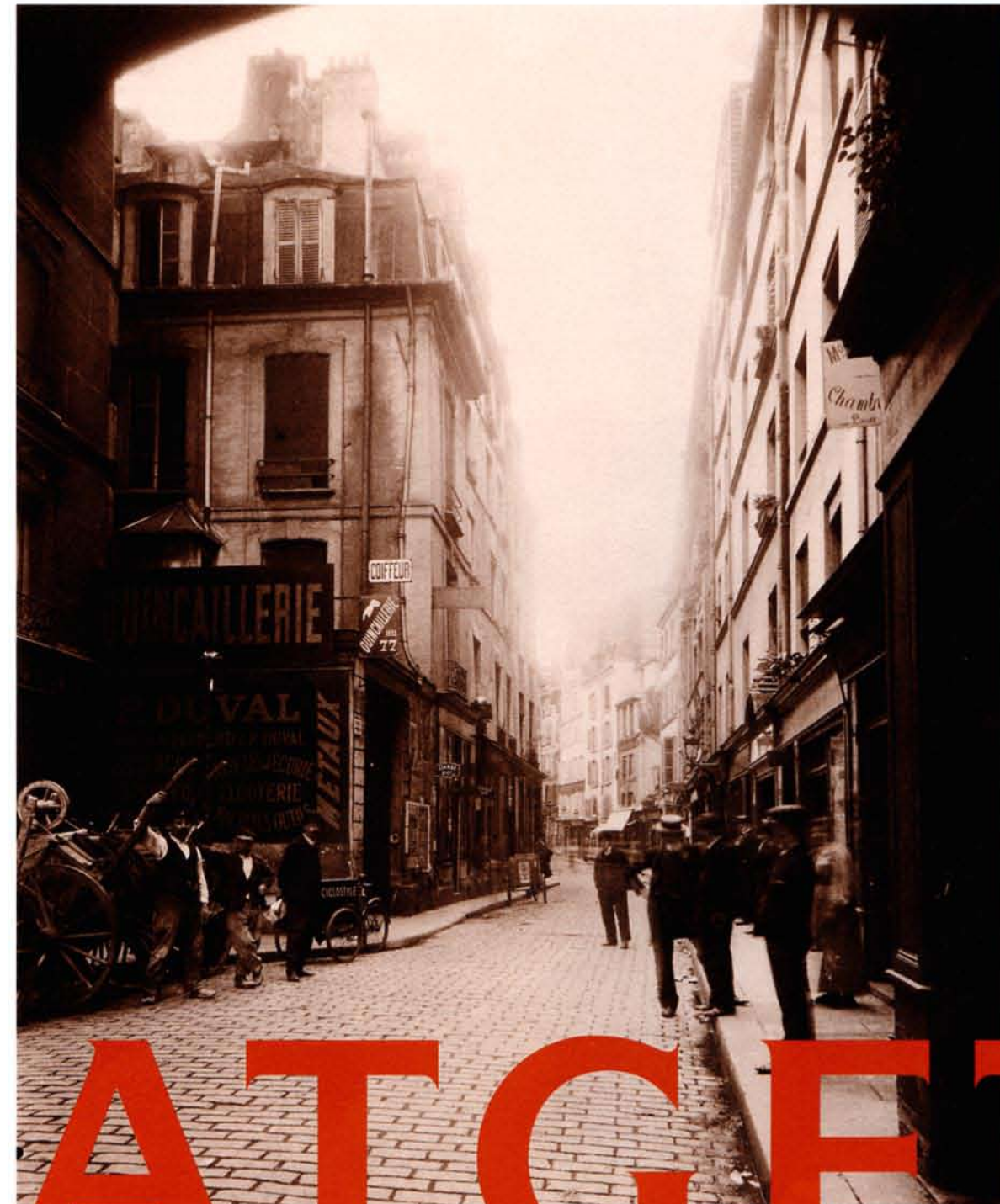
■休館日 毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
TEL 03-3280-0031 FAX 03-3280-0033 NTTハローダイヤル 03-3272-8600  
http://www.tokyo-photo-museum.or.jp

## ウジェーヌ・アジェ回顧展

開かれゆく20世紀のパリ



「古い館、サン・パウル街79番地」1910年 東京都写真美術館蔵

# ATGET

[主催]東京都写真美術館/朝日新聞社 [後援]国際交流基金/フランス大使館/東京アメリカン・センター [協力]日本航空/東武鉄道/サッポロビール株式会社

1998-1999 日本におけるフランス年/東京パリ友好都市提携事業



# EUGENE ATGET - A RETROSPECTIVE AN INTIMATE VIEW OF PARIS AT THE TURN OF THE CENTURY

## ウジェーヌ・アジェ回顧展

開かれゆく20世紀のパリ

19世紀末から20世紀初頭にかけての30年間にパリとその郊外を撮影し、およそ8000枚の貴重な写真を残した孤高の写真家。アジェは、歴史的建造物、教会、古い街並、中庭、店先、室内、庭園、街角の人々など、失われゆく「古きパリ」を、大型暗箱カメラを用いて克明に記録しました。こうしたアジェの、貴族的なものから下層の人々の生活まで、覆い隠すことなく等距離を保ち、都市の記録に徹した透明な眼差しは、写真だけがもてる世界を提示するものとして高く評価され、近代写真の先駆者の一人として位置づけられています。

アジェは、1857年にフランスのボルドーの近くに生まれ、幼くして両親を亡くした後、外国航路の給仕、地方回りの役者となりました。だが、喉の病気のため演劇界を去り、画家を志しますが、すぐに写真家に転向します。アジェは自宅のドアに「芸術家のための資料」という看板を掲げ、芸術家の資料やモチーフとなる写真を提供する傍ら、アトリエやカフェなどで売り歩きました。顧客には藤田嗣治、グラマンクといった画家や建築家、図案家などがいました。そして、1898年から「古きパ

リ、失われゆくパリ」の写真による収集を始めたのです。アジェ41歳の時でした。

20世紀初頭のパリを撮影したアジェの写真は、郷愁を持って追ってきます。19世紀的な古い事物を対象としたためでしょう。一方、同時期にアジェと同じモンパルナスのカンパニー＝ブルミエール街に住んでいたマン・レイは、アヴァンギャルドの芸術家で時代の寵児でした。1926年にマン・レイは、機関誌『シュルレアリスム革命』にアジェの写真を掲載しましたが、アジェは自分の名前の掲載を断りました。彼は、自分の写真を「これは資料です」と言い、芸術の世界に関心を示しませんでした。

マン・レイの助手ベレニス・アボットは、アジェの写真に感銘を受け、交流を持ちました。1927年パリにスタジオを開き、アジェを撮影しましたが、そのポートレイトを携えてアパートを訪れたとき、彼は既にこの世にいませんでした。アジェの死後、アボットは写真の散逸を防ぎ、アメリカに持ち帰り後世に伝えました。生前は認められることもなく、孤独のうちに世を去りましたが、アジェの名は写真史上不滅のものとなりました。



「ブルトンヴィリエ街」1924年  
Collection of The Museum of Modern Art, New York

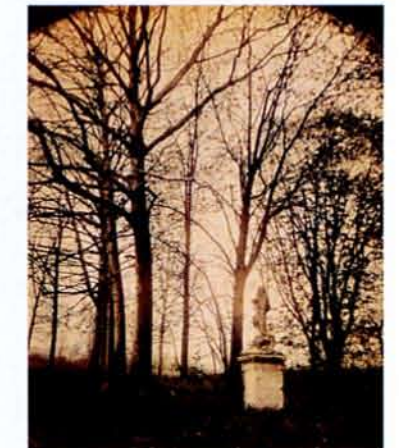


「露売りと客、サン・メダール広場」1899年 ©Atget/BHVP



「日蝕の間」1912年4月17日  
Collection of The Museum of Modern Art, New York

本展は、アジェ自身が写真を納めたパリ市歴史図書館、カルナヴァレ博物館、後にカルナヴァレ博物館から一部の作品を移管された、アジェの最後の撮影地でもあるソー・庭園のイル＝ド＝フランス博物館、そしてアボットのコレクションを収蔵したニューヨーク近代美術館から借用する作品と、当館のコレクションからの約200点で構成されています。貴重なアジェの油彩画2点も日本で初出品され、アジェの全体像を検証します。



「ソー庭園」1925年 Collection of Musée de l'Île-de-France



「アニエール門、くず屋、シテ・ヴァルミ」1913年 Collection of Musée Carnavalet

◎次回企画展予告 ラウス・ボディースト写真の近現代  
11月12日(木)―1月17日(日)

◎講演会のお知らせ

日時=10月24日(土) 14:00―17:00

講師=マリア・モリス・ハンバーグ

(キューレーター、メトロポリタン美術館、ニューヨーク)

小倉孝誠

(フランス文化史研究、東京大学助教授)

会場=東京都写真美術館1階ホール 聴講無料/先着200名

毎月第2・4金曜日午後2時より当館学芸員による

フロア・レクチャーを行います。



交通機関 JR恵比寿駅東口より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内) お車でのご来館はご遠慮ください。